

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11804

研究課題名(和文)精神科訪問看護療養費算定に係る研修受講後のブラッシュアップ研修の開発

研究課題名(英文) Development of advanced programme after basic training pertaining to medical remuneration point calculation in psychiatric home-visit nursing

研究代表者

片倉 直子 (Katakura, Naoko)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60400818

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：精神科訪問看護療養費の算定要件に係る研修をうけた看護職の訪問看護の今後の研修ニーズ等を把握し、必要なブラッシュアップ研修を計画し、有用可能に洗練することを目的とした。算定要件に係る研修を受け精神科訪問看護を提供している看護師3人にインタビューした。すべての看護師が、利用者の精神状態に体系的なアセスメントを使用しておらず、経験に基づいてケアを提供していた。そこで、統合失調症の認知機能障害に焦点を当てたブラッシュアップ研修を計画し、精神疾患をもつ利用者へ訪問看護を提供したことのある看護師11人へ実施した。看護師らは期待した以上に研修内容に満足し、参考になったと述べていた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to understand learning needs after basic training pertaining to medical remuneration point calculation in psychiatric home-visit nursing, to plan advanced programme based on the needs, and to develop it possible. Three home-visit nurses who are completed the basic training and are helping clients with mental diseases were interviewed. They helped their clients with their empirical knowledge, without systematic mental state examinations. Accordingly, advanced programme focused on cognitive dysfunction of schizophrenia was planned, and 11 home-visit nurses who were helping clients with that disease were trained. The nurses were satisfied the programme more than their expectation, and mentioned to be of use as a reference to help the clients with schizophrenia.

研究分野：在宅看護学

キーワード：精神科訪問看護 認知機能障害 統合失調症 精神科訪問看護療養費算定要件 研修

1. 研究開始当初の背景

2012年度診療報酬改定において、訪問看護ステーション(ステーション)における精神科訪問看護療養費は報酬上から区別された。そしてその算定要件が定められ、都道府県への届け出も必要になった(厚生労働省, 2012)。これは、精神科病院から地域への社会復帰の促進にとともに、精神疾患をもつ者に対する精神面のケアだけでなく身体面のケア、家族支援、社会資源の活用を提供する訪問看護の質の向上をめざしたものである(上野, 2014)。看護職等の個々の経歴に条件づけられるこの算定要件は、(i)精神科医療機関、精神保健福祉センターや保健所における精神保健医療に関する1年以上の業務経験、(ii)精神科訪問看護指示書による利用者への1年以上の訪問看護提供経験である(厚生労働省, 2012)。これらの経験がない場合、(iii)厚生労働省が認めた専門機関の20時間以上の研修を受講すれば算定が可能となる(厚生労働省, 2014)。したがって、ステーションに勤務する多くの看護職等がこの研修を受講している現状がある。

厚生労働省が認めた専門機関の研修とは、例えば全国訪問看護事業協会や日本訪問看護財団、日本精神科看護協会(日精看)が実施している研修である。この研修を実施している日精看専務理事の仲野(2014)は、算定要件のための研修を1回だけ受講するのではなく、そのフォロー・アップとして、定期的に事例検討等のブラッシュアップ研修をすることが、質の高い精神科訪問看護を提供するために必要であることを述べている。

2012年度以前から、ステーションにおける精神疾患をもつ利用者に対する訪問看護は行われており、その実施状況は2007年度に4割程度(全国訪問看護事業協会 2008)、2012年度には約6~7割(片倉ら, 2012; 全国訪問看護事業協会, 2013)と増加している。これは、精神科病院から在宅へ移行する取り組みが行われ、訪問看護のニーズが増えてきたためである。一方、2012年度以降、研修をうけてから実際に研修受講者が精神科訪問看護療養費を算定するケアを実施しているのかはまだ明確にされていない。したがって、算定要件に係る研修を受けた後、精神疾患をもつ利用者に対して成功裏に訪問看護を提供できているのか、困難が生じていないのか、また今後の研修ニーズを把握したうえで、ブラッシュアップ研修の方法および内容を検討していく必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、精神科訪問看護療養費の算定要件に係る研修を受けた看護職の訪問看護の実施状況および困難状況、今後の研修ニーズ等を把握し、その結果にもとづき

算定要件研修後に必要なブラッシュアップ研修を計画し、有用可能に洗練することである。

3. 研究の方法

1) ブラッシュアップ研修のニーズ把握

精神科訪問看護療養費算定要件の研修を受けた訪問看護ステーション看護師3人に、研修内容に関する意見と、その後必要な教育ニーズをインタビューした。インタビューは45分程度で、「当該研修に期待したこと、学べたこと」「精神科訪問看護を提供して、今後学んでいきたいと思うこと」をたずねた。インタビューは逐語録とし、算定要件に係る研修受講後の精神科訪問看護の困難感と看護師自身が求める研修ニーズに焦点をあててコード化し、カテゴリー化した。

2) 研修内容の情報収集

精神科医療・看護のエキスパートとして、ワシントン大学看護学部精神看護学分野のDr. Kozukiから、研修内容や研修用テキストについて助言を得た。Dr. Kozukiは、Psychiatric mental health nurse practitionerとして実践を行っていることから、時間制限のある訪問看護場面で使用可能なアセスメントに関する助言を得た。

3) 研修計画の立案

1) 2)の結果から、特に統合失調症に焦点をあてて、生活をするうえで困難を生じている認知機能障害のアセスメントと、それに対するケアを含めた研修内容を検討した。

4) 研修の実施とその内容

ブラッシュアップ研修を、精神疾患をもつ利用者へ訪問看護を提供したところのある看護師11人、作業療法士1人へ実施した。

4. 研究成果

1) ブラッシュアップ研修のニーズ把握

精神科訪問看護の経験が短い看護師は、利用者の変化やケアニーズがアセスメントできず、自分の実践について自信がもてていなかった。また、すべての看護師が、利用者の精神状態や内服薬の副作用などの体系的なアセスメントを使用しておらず、経験から知識に基づいてケアを提供していた。社会資源の活用方法についても、介護保険と異なることから、知識不足を述べていた。

2) 研修内容の情報収集

時間制限のある訪問看護場面で使用可能なアセスメントを選択した。また、米国では、統合失調症の認知機能障害に焦点があたっていた。研修で使用するテキストの事例や、薬物の副作用のアセスメント様式などを追加し、Dr. Kozukiと洗練を行った。アセスメント検査として、陽性・陰性症状評価尺度(Positive and Negative Syndrome Scale: PANSS)、Japanese Version of The MONTREAL COGNITIVE ASSESSMENT(MoCA-J)等を、症状のアセスメントや認知機能障害のスクリーニングとして選択した。

3) 研修計画の立案

研修の目的は、統合失調症の認知機能状態(障害)について理解を深める、認知機能障害が、日常生活に与えている影響について理解を深める、認知機能障害をアセスメントする検査方法を紹介する、アセスメントの活用可能性を検討する、の4点とした。内容は、統合失調症の認知機能障害の種類と特徴、認知機能を測定する検査の紹介(Japanese Version of The MONTREAL COGNITIVE ASSESSMENT: MoCA-J、心の状態推論質問紙: SCSQ)、General Health Questionnaire (GHQ) 等である。Moca-JおよびSCSQ、GHQは、研修前に、障害者通所施設に通っており、被験者になることに同意した統合失調症に罹患している者に依頼して、複数回訓練した。

4) 研修の実施とその評価

統合失調症に焦点をあてて、生活をするうえで困難を生じている認知機能障害のアセスメントと、それに対するケアを含めた研修内容を検討した。

ブラッシュアップ研修を、精神疾患をもつ利用者へ訪問看護を提供したところのある看護師11人、作業療法士1人へ実施した。研修の目的は、統合失調症の認知機能状態(障害)について理解を深める、認知機能障害が、日常生活に与えている影響について理解を深める、認知機能障害をアセスメントする検査方法を紹介する、アセスメントの活用可能性を検討する、の4点とした。内容は、統合失調症の認知機能障害の種類と特徴、認知機能を測定する検査の紹介(MoCA-J、SCSQ)、事例とアセスメント結果の関係、等である。

研修後の質問紙における研修前の期待は、「とても期待していた」6人(50.0%)、「少し期待していた」6人(50.0%)、研修後の満足度は「とても満足している」7人(58.3%)、「少し満足している」5人(41.7%)、研修の参考の度合いは「とても参考になった」6人(50.0%)、「少し参考になった」5人(41.7%)、「無回答」1人(8.3%)であった。認知機能障害に関する研修内容は、「とても参考になった」8人(66.7%)、「少し参考になった」4人(33.3%)であったが、検査の活用可能性に関して「とてもそう思う」4人(33.3%)、「少しそう思う」7人(58.3%)、「無回答」1人(8.3%)であった。

参加した看護師らのうち9割以上は、統合失調症の認知機能障害に関する知識が参考になったと回答しており、研修が精神科訪問看護場面で活用できる可能性を示唆した。

自由記載において、認知機能障害と利用者の言動や症状との関係を理解できたことや、検査方法に対する肯定的な意見がある一方、検査をするタイミングや限られた時間の中で検査時間を捻出すること、検査結果にもと

づく介入方法の開発への期待も述べられていた。

ブラッシュアップ研修をさらに多くの訪問看護師へ行っていき、学習効果を利用者側のアウトカムで検討すること、認知機能障害に対するケア方法の開発をすることが、今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

片倉直子、ワシントン大学看護学部の博士課程における高度実践看護師教育について：平成27年度在外研究報告、神戸市看護大学紀要、査読あり、21、2017、96-101。

[学会発表](計 0件)

[図書](計 0件)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片倉直子 (KATAKURA Naoko)
神戸市看護大学・看護学部・教授
研究者番号：60400818

(2) 研究分担者

松澤和正 (MATSUZAWA Kazumasa)
帝京大学・医療技術学部・教授
研究者番号：00383092

井上洋士 (INOUE Yoji)
放送大学・教養学部・客員教授
研究者番号：60375623

(3)連携研究者
なし

7. 引用文献

上野桂子 (2014): 「精神科訪問看護」の転換期．訪問看護と介護，19(7)，347-554．

片倉直子，松澤和正，金田一正史，弓削田友子，井上洋士 (2012) 精神疾患をもつ利用者への訪問看護事業所のケア提供の実態．21，5-14．

厚生労働省 (2012): 訪問看護ステーションの基準に係る届出に関する手続きの取扱いについて

(<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000041278.pdf> 2014年10月確認)

仲野栄 (2014): 「精神科訪問看護療養費」の意義と課題．訪問看護と介護，19(7)，551-552．

全国訪問看護事業協会 (2008): H19 年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業「精神障害者の地域生活支援を推進するための精神科訪問看護ケアの標準化と教育およびサービス提供体制のあり方の検討」

全国訪問看護事業協会 (2013): 平成 26 年度診療報酬改定に向けたアンケート

全国訪問看護事業協会 (2014): 平成 26 年度精神科訪問看護基本療養費算定要件研修会

(http://www.osaka-kangokyokai.or.jp/CMS/data/img/2014_seishinkahomonkango_moshikomi.pdf 2014年10月確認)